

臨床研修の到達目標

I 行動目標

医療人として必要な基本姿勢・態度

II 経験目標

A 経験すべき診察法・検査・手技

B 経験すべき症状・病態・疾患

C 特定の医療現場の経験

臨床研修の基本理念

臨床研修は、医師が、医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない。

I 行動目標

A：目標に到達した B：目標に近い
C：目標に遠い D：評価不能

【 医療人として必要な基本姿勢・態度 】

(1) 患者－医師関係

患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立するために	自己評価	指導医名	評価
1) 患者、家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。			
2) 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームド・コンセントが実施できる。			
3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる。			

(2) チーム医療

医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調するために	自己評価	指導医名	評価
1) 指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる。			
2) 上級及び同僚医師や他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。			
3) 同僚及び後輩へ教育的配慮ができる。			
4) 患者の転入・転出に当たり、情報を交換できる。			
5) 関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。			

(3) 問題対応能力

患者の問題を把握し、問題対応型の思考を行い、生涯にわたる自己学習の習慣を身に付けるために	自己評価	指導医名	評価
1) 臨床上の疑問点を解決するための情報を収集して評価し、当該患者への適応を判断できる (EBM =Evidence Based Medicine の実践ができる。)			
2) 自己評価及び第三者による評価を踏まえた問題対応能力の改善ができる。			
3) 臨床研究や治験の意義を理解し、研究や学会活動に関心を持つ。			
4) 自己管理能力を身に付け、生涯にわたり基本的診療能力の向上に努める。			

(4)安全管理

患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行し、安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画するために	自己評価	指導医名	評価
1) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。			
2) 医療事故防止及び事故後の対処について、マニュアルなどに沿って行動できる。			
3) 院内感染対策 (Standard Precautions を含む。)を理解し、実施できる。			

(5)症例呈示

チーム医療の実践と自己の臨床能力向上に不可欠な、症例呈示と意見交換を行うために	自己評価	指導医名	評価
1) 症例呈示と討論ができる。			
2) 臨床症例に関するカンファレンスや学術集会に参加する。			

(6)医療の社会性

医療の持つ社会的側面の重要性を理解し、社会に貢献するために	自己評価	指導医名	評価
1) 保健医療法規・制度を理解し、適切に行動できる。			
2) 医療保険、公費負担医療を理解し、適切に診療できる。			
3) 医の倫理、生命倫理について理解し、適切に行動できる。			
4) 医薬品や医療用具による健康被害の発生防止について理解し、適切に行動できる。			

II 経験目標

経験・習得可能な研修科の略称

内→内科、外→外科、小→小児科、産→産婦人科、精→精神神経科、救麻→麻酔科、全→全科共通、
地→地域保健・医療、直→日直・宿直
選→選択科(整形外科・眼科・泌尿器科・脳神経外科・皮膚科)

【 A 経験すべき診察法・検査・手技 】

(1) 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な情報が得られるような医療面接を実施するために	自己評価	指導医名	評価
1) 医療面接におけるコミュニケーションの持つ意義を理解し、コミュニケーションスキルを身に付け、患者の解釈モデル、受診動機、受療行動を把握できる。【全】			
2) 患者の病歴(主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー)の聴取と記録ができる。【全】			
3) 患者・家族への適切な指示、指導ができる。【全】			

(2) 基本的な身体診察法

病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施し、記載するために	自己評価	指導医名	評価
1) 全身の観察(バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む。)ができ、記載できる。【全・直】			
2) 頭頸部の診察(眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む。)ができ、記載できる。【内・外・選・直】			
3) 胸部の診察(乳房の診察を含む。)ができ、記載できる。 【内・外・小・救麻・選・直】			
4) 腹部の診察(直腸診を含む。)ができ、記載できる。【全・直】			
5) 泌尿・生殖器の診察(産婦人科的診察を含む。)ができ、記載できる。【産・選・直】			
6) 骨・関節・筋肉系の診察ができ、記載できる。【選・直】			
7) 神経学的診察ができ、記載できる。【内・精・選・直】			
8) 小児の診察(生理的所見と病的所見の鑑別を含む。)ができ、記載できる。【小・直】			
9) 精神面の診察ができ、記載できる。【全・直】			

(3) 基本的な臨床検査

必修項目

下線の検査については、受け持ち患者の検査として診療に活用する(経験)

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を

- A・・・自ら実施し、結果を解釈できる。
 その他・・・検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる。

	自己 評価	指導医名	評価
1) <u>一般尿検査</u> (尿沈渣顕微鏡検査を含む。) 【全・直】			
2) <u>便検査</u> (潜血、虫卵) 【内・外・小】			
3) <u>血算・白血球分画</u> 【全・直】			
A4) <u>血液型判定・交差適合試験</u> 【全・直】			
A5) <u>心電図(12誘導)</u> 【全・直】			
・負荷心電図 【内】			
A6) <u>動脈血ガス分析</u> 【内・外・救麻・直】			
7) <u>血液生化学的検査</u> 【全・直】			
・簡易検査(血糖、電解質、尿素窒素など) 【内・外・救麻・直】			
8) <u>血液免疫血清学的検査</u> (免疫細胞検査、アレルギー検査を含む。) 【内・小】			
9) <u>細菌学的検査・薬剤感受性検査</u> 【全】			
・検体の採取(痰、尿、血液など) 【全】			
・簡単な細菌学的検査(グラム染色など) 【直】			
10) <u>肺機能検査</u> 【内】			
・スパイロメトリー 【全】			
11) <u>髄液検査</u> 【内・小・選】			
12) <u>細胞診・病理組織検査</u> 【内・外・産・選】			
13) <u>内視鏡検査</u> 【内・外・産・選】			
A14) <u>超音波検査</u> 【内・外・産・選・直】			
15) <u>単純X線検査</u> 【全・直】			
16) <u>造影X線検査</u> 【内・外・選】			
17) <u>X線CT検査</u> 【全・直】			
18) <u>MRI検査</u> 【全】			
19) <u>核医学検査</u> 【内・外・選】			
20) <u>神経生理学的検査</u> (脳波・筋電図など) 【小・精・選】			

※ Aの検査で自ら実施する部分については、受け持ち症例でなくてもよい。

(4) 基本的手技

必修項目
下線の手技を、自ら行った経験がある。

基本的手技の適応を決定し、実施するために

	自己 評価	指導医名	評価
1) <u>気道確保</u> を実施できる。【内・外・救麻・小・選・直】			
2) <u>人工呼吸</u> を実施できる。(バッグマスクによる徒手換気を含む。)【救麻・直】			
3) <u>心マッサージ</u> を実施できる。【救麻・直】			
4) <u>圧迫止血法</u> を実施できる。【外・救麻・選・直】			
5) <u>包帯法</u> を実施できる。【選・直】			
6) <u>注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保、中心静脈確保)</u> を実施できる。【全・直】			
7) <u>採血法(静脈血、動脈血)</u> を実施できる。【全・直】			
8) <u>穿刺法(腰椎)</u> を実施できる。【内・救麻・選】			
9) 穿刺法(胸腔、腹腔)を実施できる。【内・外・救麻・選】			
10) <u>導尿法</u> を実施できる。【全・直】			
11) <u>ドレーン・チューブ類の管理</u> ができる。【内・外・救麻・選】			
12) <u>胃管の挿入と管理</u> ができる。【内・外・救麻】			
13) <u>局所麻酔法</u> を実施できる。【外・救麻・選・直】			
14) <u>創部消毒とガーゼ交換</u> を実施できる。【外・救麻・産・選】			
15) <u>簡単な切開・排膿</u> を実施できる。【外・選・直】			
16) <u>皮膚縫合法</u> を実施できる。【外・産・選・直】			
17) <u>軽度の外傷・熱傷</u> の処置を実施できる。【外・選・直】			
18) <u>気管挿管</u> を実施できる。【救麻】			
19) <u>除細動</u> を実施できる。【内・救麻・直】			

(5) 基本的治療法

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために	自己評価	指導医名	評価
1) 療養指導(安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備を含む。)ができる。【全】			
2) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療(抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む。)ができる。【全・直】			
3) 基本的な輸液ができる。【全・直】			
4) 輸血(成分輸血を含む。)による効果と副作用について理解し、輸血が実施できる。【全】			

(6) 医療記録

必修項目

診療録の作成、処方箋・指示書の作成、診断書の作成、死亡診断書の作成、CPCレポートの作成・症例呈示、紹介状・返信の作成を自ら行った経験がある
(※ CPCレポートとは、剖検報告のこと)

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために	自己評価	指導医名	評価
1) 診療録(退院時サマリーを含む。)をPOS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる。【全】			
2) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。【全】			
3) 診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し、管理できる。【全・直】			
4) CPC(臨床病理検討会)レポートを作成し、症例呈示できる。【全】			
5) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。【全】			

(7) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために	自己評価	指導医名	評価
1) 診療計画(診断、治療、患者・家族への説明を含む。)を作成できる。【全】			
2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。【全】			
3) 入退院の適応を判断できる(デイサージャリー症例を含む。)。【全】			
4) QOL(Quality of Life)を考慮にいたった総合的な管理計画(リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。)へ参画する。 【全】			

【 B 経験すべき症状・病態・疾患 】

1. 頻度の高い症状

必修項目

下線の症状を自ら診療し、鑑別診断を行い、レポートを提出する

	自己 評価	指導医名	評価
1) 全身倦怠感 【全・直】			
2) <u>不眠</u> 【全・直】			
3) 食欲不振 【全・直】			
4) 体重減少、体重増加 【全・直】			
5) <u>浮腫</u> 【全・直】			
6) <u>リンパ節腫脹</u> 【全・直】			
7) <u>発疹</u> 【全・直】			
8) 黄疸 【全・直】			
9) <u>発熱</u> 【全・直】			
10) <u>頭痛</u> 【全・直】			
11) <u>めまい</u> 【全・直】			
12) 失神 【全・直】			
13) けいれん発作 【全・直】			
14) <u>視力障害、視野狭窄</u> 【全・直】			
15) <u>結膜の充血</u> 【全・直】			
16) 聴覚障害 【全・直】			
17) 鼻出血 【全・直】			
18) 嘔声 【全・直】			
19) <u>胸痛</u> 【全・直】			
20) <u>動悸</u> 【全・直】			

	自己 評価	指導医名	評価
21)呼吸困難【全・直】			
22)咳・痰【全・直】			
23)嘔気・嘔吐【全・直】			
24)胸やけ【全・直】			
25)嚥下困難【全・直】			
26)腹痛【全・直】			
27)便通異常(下痢、便秘)【全・直】			
28)腰痛【全・直】			
29)関節痛【全・直】			
30)歩行障害【全・直】			
31)四肢のしびれ【全・直】			
32)血尿【全・直】			
33)排尿障害(尿失禁・排尿困難)【全・直】			
34)尿量異常【全・直】			
35)不安・抑うつ【全・直】			

2. 緊急を要する症状・病態

必修項目 <u>下線の病態</u> を経験（初期治療に参加）すること	自己 評価	指導医名	評価
1) <u>心肺停止</u> 【救麻・直】			
2) <u>ショック</u> 【内・外・救麻・産・直】			
3) <u>意識障害</u> 【内・救麻・小・精・選・直】			
4) <u>脳血管障害</u> 【内・救麻・精・選・直】			
5) 急性呼吸不全 【内・救麻・選・直】			
6) <u>急性心不全</u> 【内・救麻・選・直】			
7) <u>急性冠症候群</u> 【内・救麻・選・直】			
8) <u>急性腹症</u> 【内・外・小・産・選・直】			
9) <u>急性消化管出血</u> 【内・外・直】			
10) 急性腎不全 【内・救麻・選】			
11) 流・早産及び満期産 【産】			
12) 急性感染症 【全・直】			
13) <u>外傷</u> 【外・救麻・選・直】			
14) <u>急性中毒</u> 【内・救麻・直】			
15) 誤飲、誤嚥 【内・救麻・小・直】			
16) <u>熱傷</u> 【救麻・選・直】			
17) 精神科領域の救急 【精・直】			

3. 経験が求められる疾患・病態

必修項目

1. A疾患については入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例レポートを提出する
2. B疾患については、外来診療又は受け持ち入院患者（合併症含む。）で自ら経験する
3. 外科症例（手術を含む。）を1例以上受け持ち、診断、検査、術後管理等について症例レポートを提出する

※全疾患（88項目）のうち70%以上を経験することが望ましい

(1)血液・造血器・リンパ網内系疾患【内・小】	自己評価	指導医名	評価
B1)貧血(鉄欠乏貧血、二次性貧血)			
2)白血病			
3)悪性リンパ腫			
4)出血傾向・紫斑病(播種性血管内凝固症候群:DIC)			

(2)神経系疾患【内・精・選・直】	自己評価	指導医名	評価
A1)脳・脊髄血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)			
2)認知症疾患			
3)脳・脊髄外傷(頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫)			
4)変性疾患(パーキンソン病)			
5)脳炎・髄膜炎			

(3)皮膚系疾患【全・直】	自己評価	指導医名	評価
B1)湿疹・皮膚炎群(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎)			
B2)蕁麻疹			
3)薬疹			
B4)皮膚感染症			

(4)運動器(筋骨格)系疾患【選・直】	自己 評価	指導医名	評価
B1)骨折			
B2)関節・靭帯の損傷及び障害			
B3)骨粗鬆症			
B4)脊柱障害(腰椎椎間板ヘルニア)			

(5)循環器系疾患【内・選・直】	自己 評価	指導医名	評価
A1)心不全			
B2)狭心症、心筋梗塞			
3)心筋症			
B4)不整脈(主要な頻脈性、徐脈性不整脈)			
5)弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)			
B6)動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤)			
7)静脈・リンパ管疾患(深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫)			
A8)高血圧症(本態性、二次性高血圧症)			

(6)呼吸器系疾患【内・選・直】	自己 評価	指導医名	評価
B1)呼吸不全			
A2)呼吸器感染症(急性上気道炎、気管支炎、肺炎)			
B3)閉塞性・拘束性肺疾患(気管支喘息、気管支拡張症)			
4)肺循環障害(肺塞栓・肺梗塞)			
5)異常呼吸(過換気症候群)			
6)胸膜、縦隔、横隔膜疾患(自然気胸、胸膜炎)			
7)肺癌			

(7) 消化器系疾患 【内・外・小・直】	自己 評価	指導医名	評価
A1) 食道・胃・十二指腸疾患(食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎)			
B2) 小腸・大腸疾患(イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻)			
3) 胆嚢・胆管疾患(胆石、胆嚢炎、胆管炎)			
B4) 肝疾患(ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害)			
5) 膵臓疾患(急性・慢性膵炎)			
B6) 横隔膜・腹壁・腹膜(腹膜炎、急性腹症、ヘルニア)			

(8) 腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む。)疾患 【内・選・直】	自己 評価	指導医名	評価
A1) 腎不全(急性・慢性腎不全、透析)			
2) 原発性糸球体疾患(急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群)			
3) 全身性疾患による腎障害(糖尿病性腎症)			
B4) 泌尿器科的腎・尿路疾患(尿路結石、尿路感染症)			

(9) 妊娠分娩と生殖器疾患 【外・産・選】	自己 評価	指導医名	評価
B1) 妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥)			
2) 女性生殖器及びその関連疾患(月経異常(無月経を含む。)、不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍)			
B3) 男性生殖器疾患(前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍)			

(10)内分泌・栄養・代謝系疾患【内・選】	自己 評価	指導医名	評価
1)視床下部・下垂体疾患(下垂体機能障害)			
2)甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)			
3)副腎不全			
A4)糖代謝異常(糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖)			
B5)高脂血症			
6)蛋白及び核酸代謝異常(高尿酸血症)			

(11)眼・視覚系疾患【選】	自己 評価	指導医名	評価
B1)屈折異常(近視、遠視、乱視)			
B2)角結膜炎			
B3)白内障			
B4)緑内障			
5)糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化			

(12)耳鼻・咽喉・口腔系疾患【選・直】	自己 評価	指導医名	評価
B1)中耳炎			
2)急性・慢性副鼻腔炎			
B3)アレルギー性鼻炎			
4)扁桃の急性・慢性炎症性疾患			
5)外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物			

(13)精神・神経系疾患【精】	自己 評価	指導医名	評価
1) 症状精神病			
A2) 認知症(血管性認知症を含む。)			
3) アルコール依存症			
A4) 気分障害(うつ病、躁うつ病を含む。)			
A5) 統合失調症(精神分裂病)			
6) 不安障害(パニック症候群)			
B7) 身体表現性障害、ストレス関連障害			

(14)感染症【内・外・産・地・選・直】	自己 評価	指導医名	評価
B1) ウイルス感染症(インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎)			
B2) 細菌感染症(ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア)			
B3) 結核			
4) 真菌感染症(カンジダ症)			
5) 性感染症			
6) 寄生虫疾患			

(15)免疫・アレルギー疾患【内・選】	自己 評価	指導医名	評価
1) 全身性エリテマトーデスとその合併症			
B2) 慢性関節リウマチ			
B3) アレルギー疾患			

(16)物理・化学的因子による疾患【内・救麻・精・選・直】

	自己 評価	指導医名	評価
1)中毒(アルコール、薬物)			
2)アナフィラキシー			
3)環境要因による疾患(熱中症、寒冷による障害)			
B4)熱傷			

(17)小児疾患【内・直】

	自己 評価	指導医名	評価
B1)小児けいれん性疾患			
B2)小児ウイルス感染症(麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ)			
3)小児細菌感染症			
B4)小児喘息			
5)先天性心疾患			

(18)加齢と老化【内・地・選】

	自己 評価	指導医名	評価
B1)高齢者の栄養摂取障害			
B2)老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡)			

【 C 特定の医療現場の経験 】

必須項目にある現場の経験とは、各現場における到達目標の項目のうち、一つ以上経験すること

(1) 救急医療 【内・外・救麻・小・産・選・直】

必修項目

救急医療の現場を経験する

生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をするために	自己評価	指導医名	評価
1) バイタルサインの把握ができる。			
2) 重症度及び緊急度の把握ができる。			
3) ショックの診断と治療ができる。			
4) 二次救命処置 (ACLS = Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む。)ができ、一次救命処置 (BLS = Basic Life Support)を指導できる。 ※ ACLS は、バッグ・バルブ・マスク等を使う心肺蘇生法や除細動、気管挿管、薬剤投与等の一定のガイドラインに基づく救命処置を含み、BLS には、気道確保、心臓マッサージ、人工呼吸等機器を使用しない処置が含まれる。			
5) 頻度の高い救急疾患の初期治療ができる。			
6) 専門医への適切なコンサルテーションができる。			
7) 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。			

(2) 予防医療 【内・小・産・選】

必修項目

予防医療の現場を経験すること

予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画するために	自己評価	指導医名	評価
1) 食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネジメントができる。			
2) 性感染症予防、家族計画を指導できる。			
3) 地域・産業・学校保健事業に参画できる。			
4) 予防接種を実施できる。			

(3)地域医療【地】

必修項目

へき地・離島診療所、中小病院・診療所等の地域医療の現場を経験する

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために	自己評価	指導医名	評価
1) 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療(在宅医療を含む)について理解し、実践する。			
2) 診療所の役割(病診連携への理解を含む。)について理解し、実践する。			
3) へき地・離島医療について理解し、実践する。			

(4)周産・小児・成育医療【産・小・地】

必修項目

周産・小児・成育医療の現場を経験する

周産・小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために	自己評価	指導医名	評価
1) 周産期や小児の各発達段階に応じて適切な医療が提供できる。			
2) 周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。			
3) 虐待について説明できる。			
4) 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。			
5) 母子健康手帳を理解し活用できる。			

(5)精神保健・医療【精・地】

必修項目

精神保健福祉センター、精神科病院等の精神保健・医療の現場を経験すること

精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために	自己評価	指導医名	評価
1) 精神症状の捉え方の基本を身につける。			
2) 精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。			
3) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。			

(6)緩和ケア、終末期医療【内・外】

必修項目
臨終の立ち会いを経験する

緩和ケアや終末期医療を必要とする患者とその家族に対して、 全人的に対応するために	自己 評価	指導医名	評価
1) 心理社会的側面への配慮ができる。			
2) 治療の初期段階から基本的な緩和ケア(WHO方式がん疼痛治療法を含む。)ができる。			
3) 告知をめぐる諸問題への配慮ができる。			
4) 死生観・宗教観などへの配慮ができる。			

(7)地域保健

地域保健を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、保健所、介護老人保健施設、社会福祉施設、赤十字社血液センター、各種検診・健診の実施施設等の地域保健の現場において	自己 評価	指導医名	評価
1) 保健所の役割(地域保健・健康増進への理解を含む。)について理解し、実践する。			
2) 社会福祉施設等の役割について理解し、実践する。			

当院における各診療科別評価項目

B <内 科> 1. 循環器疾患		プログラム責任者 鈴木 章彦	研修医 自己評価	指導医氏名	指導医 評価	備 考
手技・基本的な知識	• 診察法					
	• 心電図の実施法・評価(負荷心電図を含む)					
	• 胸部単純 X 線・CTの撮影・読影					
	• ホルター心電図の適応・結果の評価					
	• 心エコーの適応・結果の評価・実施					
	• 除細動の実施					
症候	• 心雑音の鑑別・評価・マネージメント					
	• 胸痛の鑑別・評価・マネージメント					
	• 動悸の鑑別・評価・マネージメント					
	• 浮腫の鑑別・評価・マネージメント					
	• 失神の鑑別・評価・マネージメント					
疾患	• 高血圧の診断・評価・マネージメント					
	• 脂質異常症の診断・評価・マネージメント					
	• 狭心症の診断・評価・マネージメント					
	• 急性心筋梗塞の診断と初期治療・入院管理					
	• 陳旧性心筋梗塞のマネージメント					
	• 心不全の診断・評価・マネージメント					
	• 心房細動の診断・評価・マネージメント					
	• 弁膜症の診断・評価・マネージメント					
	• 肺塞栓症の診断・評価					
	• 胸・腹部大動脈瘤の診断・手術の適応					
	• 下肢動脈閉塞性疾患の診断・評価・マネージメント					
	• 二次性高血圧のスクリーニング					
	• 外来で行う抗血小板療法・抗凝固療法について					

B <内 科> 2. 呼吸器系疾患		プログラム責任者 上村 明	研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備 考
手技・基本的な知識	• 診察法					
	• 胸部単純 X 線の撮影・読影					
	• 胸部 CT の適応・読影					
	• 呼吸機能検査の適応・結果の評価					
	• SPO2 の測定 of 適応・結果の評価					
	• 動脈血採血					
	• 胸腔穿刺・ドレナージ・局麻下胸腔鏡					
	• レスピレーター管理					

手技・基本的な知識	• アプノモニター				
	• 気管支鏡検査				
症候	• 呼吸困難の鑑別・評価・マネージメント				
	• 咳嗽(特に慢性咳嗽)の鑑別・評価・マネージメント				
	• (診察・胸部レントゲンで見つかった)胸水の鑑別・評価・マネージメント				
	• (胸部レントゲンで見つかった)腫瘤影の鑑別・評価・マネージメント				
疾患	• 気胸の診断・評価・マネージメント				
	• 一般的な感染症の診断・評価・マネージメント(急性上気道炎・気管支炎・肺炎、外来における治療・入院における治療)				
	• 肺抗酸菌症の予防・診断(ツ反の実施法・結果のみかたなど)				
	• COPD、間質性肺疾患の診断・評価・マネージメント(HOTの適応から実施も含む)				
	• 気管支喘息の診断・評価・外来におけるマネージメント(長期のマネージメント・発作時のマネージメント)				
	• 肺腫瘍の診断・治療				
	• 睡眠時無呼吸症候群の診断・治療				
疾患	• ステロイド治療の適応・副作用・投与法				
	• 禁煙指導				

B <内 科> プログラム責任者		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
3. 消化器疾患					
手技・基本的な知識	• 診察法(直腸診も含む)				
	• 腹部単純 X 線の撮影・読影				
	• 腹部エコーの実施法・鑑別				
	• 腹部 CT の適応・読影				
	• 胃チューブの挿入				
	• 胃洗浄				
	• S・B チューブによる止血				
症候	• 上部消化管内視鏡				
	• 腹痛の鑑別・評価・処置				
	• 嘔気・嘔吐の鑑別・評価・処置				
	• 下痢の鑑別・評価・処置				
	• 便秘の鑑別・評価・処置				
疾患	• 消化管出血の鑑別・評価・処置				
	• GERD の診断・処置				
	• 消化性潰瘍の診断・治療				
	• 胃癌・大腸癌のスクリーニング				
	• 過敏性腸症候群の評価・診断・処置				
	• 肝機能障害の鑑別・評価・処置				
	• ウイルス性肝炎・肝硬変の評価・診断・処置				

疾患	• アルコール性肝障害の評価・診断・処置				
	• 胆道系疾患の評価・診断・処置				
	• 膵炎の評価・診断・処置				

B <内 科> プログラム責任者		研修医	指導医氏名	指導医	備考
4. 血液疾患 白間 信行		自己評価		評価	
手技・基本的な知識	• 骨髄穿刺・基本的染色				
	• 輸血の評価・処置・注意点				
症候	• 貧血の鑑別・評価・処置				
	• 赤血球増多の鑑別・評価・処置				
	• 凝固線溶異常の鑑別・評価・処置				
疾患	• 頻度多く遭遇する貧血の鑑別・評価・処置				

B <内 科> プログラム責任者		研修医	指導医氏名	指導医	備考
5. 内分泌系疾患 吉村 治彦		自己評価		評価	
手技・基本的な知識	• インスリン自己注射の手技・知識				
	• SMBG の手技・知識				
	• 頸動脈エコー・甲状腺エコーの知識・手技				
症候	• thyroid nodule・goiter の鑑別・評価・マネジメント				
	• 高カルシウム血症の鑑別・マネジメント				
疾患	• 1型・2型糖尿病のスクリーニング・評価・マネジメント				
	• 2次性糖尿病の診断・治療				
	• 甲状腺機能亢進症のスクリーニング・評価・マネジメント				
	• 甲状腺機能低下症のスクリーニング・評価・マネジメント				
	• 甲状腺以外の内分泌器官の検査・診断・治療				

C <外 科> プログラム責任者		研修医	指導医氏名	指導医	備考
1. 甲状腺・乳腺 伊藤 浩二		自己評価		評価	
基本的な知識	• 診断方法				
	• 手術適応となる疾患および鑑別診断				
	• 頸部、乳腺エコーの適応および読影				
	• マンモグラフィーの適応				
	• 手術術式				
外科的手技	• 診察方法				
	• 針生検および摘出生検				
	• 手術助手				
術後管理	• 乳房切除後のリハビリテーション				
	• 甲状腺手術後に起こりうるテタニー、反				

術後管理	• 術後化学療法および放射線療法				
	• 長期の術後管理				

C <外 科> プログラム責任者 2. 肺・縦隔 伊藤 浩二		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
基本的な知識	• 診断方法(画像診断、血液データ等)				
	• 手術適応となる疾患および鑑別診断				
	• 術前呼吸訓練方法				
	• 手術術式				
外科的手技	• 胸腔ドレーン留置				
	• CTガイド下マーキング				
	• 手術助手				
術後管理	• 呼吸管理				
	• 各種合併症およびその対策				
	• 術後化学療法および放射線療法				
	• 長期の術後管理				

C <外 科> プログラム責任者 3. 食道・胃・十二指腸・小腸 伊藤 浩二		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
基本的な知識	• 診断方法(画像診断、血液データ等)				
	• 手術適応となる疾患および鑑別診断 (イレウスの手術適応等)				
	• 手術術式				
外科的手技	• 胃管・イレウス管挿入				
	• 術後消化管造影				
	• 手術助手				
術後管理	• 各種合併症およびその対策				
	• 術後化学療法および放射線療法				
	• 長期の術後管理				

C <外 科> プログラム責任者 4. 大腸・虫垂・肛門部疾患 伊藤 浩二		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
基本的な知識	• 診断方法(画像診断、血液データ、直腸指診等)				
	• 手術適応となる疾患および鑑別診断				
	• 手術術式				
外科的手技	• 急性虫垂炎、肛門部疾患の診察法				
	• 消化管ストーマの管理				
	• 肛門鏡の適応および操作方法				
	• 手術助手				
	• 手術術者: 虫垂炎、肛門部疾患等				
	• 術後消化管造影				

術後管理	• 各種合併症およびその対策				
	• 術後化学療法および放射線療法				
	• 長期の術後管理				

C <外科> プログラム責任者 5. 肝・胆道・膵・脾 伊藤 浩二		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
基本的な知識	• 診断方法(画像診断、血液データ、胆道ドレナージ等)				
	• 手術適応となる疾患および鑑別診断				
	• 手術術式				
外科的手技	• 胆道ドレナージ				
	• 血管造影				
	• 手術助手				
	• 術後胆道造影				
術後管理	• 各種合併症およびその対策				
	• 術後化学療法および放射線療法				
	• 長期の術後管理				

C <外科> プログラム責任者 6. ヘルニア・小児・外傷・その他 伊藤 浩二		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
基本的な知識	• 診断方法(画像診断、血液データ、小児の診察方法等)				
	• 手術適応となる疾患および鑑別診断				
	• 手術術式				
外科的手技	• 末梢血管の検査(触診、脈管造影等)				
	• 外傷時の診察・治療の進め方				
	• 手術助手				
	• 手術術者:ヘルニア、体表軟部腫瘤等				
術後管理	• 各種合併症およびその対策				
	• 小児の術後管理				
	• 多発外傷時の他科との連携				

C <外科> プログラム責任者 7. その他 伊藤 浩二		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
	• 術前・術後検査				
	• 術前・術後輸液、輸血方法				
	• 摘出臓器の取り扱いおよび病理学的検索方法				
	• 外科で汎用される薬剤の作用機序および使用量				
	• 中心静脈カテーテル挿入およびその管理				
	• レスピレーターの適応および使用方法				
	• ドレナージの適応および使用方法				
	• 各種ドレーンの管理				

• 胸腔鏡、腹腔鏡操作方法				
• 末期癌患者の管理				
• 術後に行われる血液浄化法				

D <腎・泌尿器科> プログラム責任者 片野 英典		研修医 自己評価	指導医氏名	指導医 評価	備考
手技・基本的な知識	• 排尿異常に関する問診ができる				
	• 尿沈渣の鏡検ができる				
	• 腹部、外陰部の視診、触診				
	• 導尿、尿道留置カテーテルの挿入				
症候	• 尿閉、無尿の鑑別・評価・マネージメント				
	• 肉眼的血尿の鑑別・評価・マネージメント				
	• 検尿異常(蛋白尿、尿潜血)の鑑別・評価・マネージメント				
	• 排尿異常(頻尿、尿失禁、排尿困難)の鑑別・評価・マネージメント				
	• 背部痛、下腹部痛、急性陰嚢症の鑑別・評価・マネージメント				
疾患	• 尿路感染症(膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺炎)の診断・マネージメント				
	• 前立腺肥大症の診断・マネージメント				
	• 尿路結石の診断・マネージメント				
	• 機能的排尿障害の診断・マネージメント				
	• 尿路悪性腫瘍の診断・マネージメント				
	• 尿路変更(カテーテル留置、尿路ストマ)のマネージメント				

E <皮膚科> プログラム責任者 村松 隆一		研修医 自己評価	指導医氏名	指導医 評価	備考
手技・基本的な知識	• 発疹学(皮疹の分析的な見方)				
	• パッチテスト(接触アレルギーの検索)				
	• 真菌検査(鏡検による真菌の確認)				
	• 外用剤の使い方				
症候	• 全身の痒みを生じる疾患の鑑別・評価・マネージメント				
	• 滲出性の紅斑を生じる疾患の鑑別・評価・マネージメント				
	• 発疹症型皮疹を生じる疾患の鑑別・評価・マネージメント				
	• 紅皮症を生じる疾患の鑑別・評価・マネージメント				
	• 水疱を生じる疾患の鑑別・評価・マネージメント				
	• 紫斑を生じる疾患の鑑別・評価・マネージメント				
疾患	• 接触性皮膚炎の診断・マネージメント				
	• 帯状疱疹・PHNのマネージメント				

疾患	• アトピー性皮膚炎の診断・マネージメント				
	• 蕁麻疹の診断・マネージメント				
	• 痒疹の診断・マネージメント				
	• 皮膚真菌症の診断・マネージメント				
	• 薬疹の診断・マネージメント				
	• 膠原病の診断・マネージメント				
	• 皮膚悪性腫瘍の診断・マネージメント				

F <整形外科>		プログラム責任者 富田 文久	研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
手技・基本的な知識	• 筋・骨格系の診察法					
	• 各種 X 線の撮影と読影					
	• 関節穿刺の適応と実施法(特に膝、肩)					
	• 各種注射の手技					
	• シーネ固定					
	• キャスト(ギプス)固定					
	• 包帯法					
症候	• 脱臼整復					
	• 関節炎の鑑別・評価・マネージメント					
	• 腰痛の鑑別・評価・マネージメント					
	• 頸部痛の鑑別・評価・マネージメント					
	• 肩痛の鑑別・評価・マネージメント					
	• 膝痛の鑑別・評価・マネージメント					
	• 足関節痛の鑑別・評価・マネージメント					
疾患	• その他各部の痛み・しびれの鑑別・評価・マネージメント					
	• 変形性関節症(とくに膝)の診断・マネージメント					
	• 骨粗鬆症の診断・マネージメント					

G <脳神経外科>		プログラム責任者 杉本 信志	研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
手技・基本的な知識	• 診察法					
	• 腰椎穿刺					
	• 脳神経疾患の CT・MRI・RI・血管撮影の読影					
症候	• 頭痛の鑑別・評価・マネージメント					
	• めまいの鑑別・評価・マネージメント					
症候	• しびれの鑑別・評価・マネージメント					
	• 高次脳機能障害の鑑別・評価・マネージメント					
	• 痙攣の鑑別・評価・マネージメント					
	• 意識障害の鑑別・評価・マネージメント					
	• 運動麻痺の鑑別・評価・マネージメント					

疾患	• 脳血管障害の診断・マネージメント				
	• 脳腫瘍の診断・マネージメント				
	• 頭部外傷の診断・マネージメント				
	• 脊髄疾患の評価・マネージメント				

H <眼 科>		プログラム責任者 保坂 文雄	研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
手技・基本的な知識	• 視力検査(対座法、視力表)					
	• 屈折検査(オートレフラクトメーター)					
	• 眼圧検査(指圧法、ノンコンタクトトノメーター)					
	• 視野検査(対座法)					
	• 眼位・眼球運動検査					
	• 点眼手技・眼軟膏点入手技					
	• 創処置(洗眼、眼帯)					
症候	• 視力低下の鑑別・評価・マネージメント					
	• 眼痛の鑑別・評価・マネージメント					
	• 光視症・飛蚊症の鑑別・評価・マネージメント(と眼科紹介の適応)					
	• 流涙の鑑別・評価・マネージメント					
疾患	• 屈折異常(近視・遠視・乱視・老視)					
	• 麦粒腫・霰粒腫の診断・マネージメント					
	• 結膜炎(細菌性・ウイルス性・アレルギー性)の診断・マネージメント					
	• 結膜・角膜異物・角膜びらんの診断・評価・マネージメント					
	• 緑内障のスクリーニング・評価・マネージメント					
	• 白内障の診断・評価・マネージメント					
	• 糖尿病性網膜症のスクリーニング・評価・マネージメント					

J <小 児 科>		プログラム責任者 佐藤 俊哉	研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
基本的な知識	• 小児の診察					
	• 小児の成長と発達					
	• 月齢に対応した健診					
	• 栄養の知識					
	• 育児支援や不安への対処					
	• 水・電解質の知識(脱水・輸液の知識)					
	• 保護者からの情報聴取と説明					
症候	• 発熱の鑑別・評価・マネージメント					
	• 呼吸困難の鑑別・評価・マネージメント					
	• 咳嗽の鑑別・評価・マネージメント					

	• 咽頭痛の鑑別・評価・マネージメント				
	• 皮疹の鑑別・評価・マネージメント				
	• 腹痛の鑑別・評価・マネージメント				
	• 下痢の鑑別・評価・マネージメント				
	• 嘔吐の鑑別・評価・マネージメント				
疾患	• 急性上気道炎の診断・評価・マネージメント				
	• 急性胃腸炎の診断・評価・マネージメント				
	• 気管支炎・肺炎の診断・評価・マネージメント				
	• RSウイルス、インフルエンザの診断・評価・マネージメント				
	• 尿路感染症の診断・評価・マネージメント				
	• ネフローゼの診断・評価・マネージメント				
	• 急性腎炎の診断・評価・マネージメント				
	• 髄膜炎の診断・評価・マネージメント				
	• 細菌感染症の診断・評価・マネージメント				
	• ウイルス感染症の診断・評価・マネージメント				
	• 腸重積の診断・評価・マネージメント				
	• 便秘の診断・評価・マネージメント				
	• 虫垂炎の診断・評価・マネージメント				
	• 気管支喘息の診断・評価・マネージメント				
	• 心臓の診察法(聴診を中心として)				
	• 心電図の評価				
	• 心臓の超音波検査				
	• 貧血の鑑別・評価・マネージメント				
	• 悪性腫瘍の鑑別・評価				
	• 血尿の鑑別・評価・マネージメント				
疾患	• 蛋白尿の鑑別・評価・マネージメント				
	• 痙攣の鑑別とマネージメント				
	• 脳炎の診断・評価・マネージメント				
	• 伝染性単核症の診断・評価・マネージメント				
	• 川崎病の診断				
	• 未熟児の診断・評価・マネージメント				
	• 新生児の心肺蘇生マネージメント				
	• 新生児の輸液マネージメント				
	• サーファクテン治療				
	• 新生児レスピレーターの手技				
	• 遺伝性疾患の診断・評価・マネージメント				
	• こころの発達の評価				

疾患	• 自閉症・多動症・集中力障害・不登校・いじめのマネジメント				
	• 成長障害の診断・評価				
	• 肥満の診断・評価・マネジメント				
	• 糖尿病の診断・評価・マネジメント				
	• 甲状腺障害の診断・評価・マネジメント				
	• 膠原病の診断・評価・マネジメント				
	• 発疹症の鑑別・評価・マネジメント				
	• 学校伝染病の鑑別・評価・マネジメント				
	• 予防接種				
	• 学校検診				
	• 院内感染対策				
	• 耐性菌の診断・評価・マネジメント				

K <産婦人科>		プログラム責任者 古堂 俊哉	研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
手技・基本的な知識	• 産婦人科的診察法(内診・膣鏡診・分泌液の鏡検・経膣エコー・経腹エコー)					
産科	• 妊娠の診断・マネジメント					
	• 正常妊娠の生理・経過と外来におけるマネジメント					
	• 母体保護法に関する知識					
	• 妊婦への薬物投与					
	• 異常妊娠に関する知識					
	• 合併症妊娠の知識					
	• 慢性疾患患者の挙児希望へのアドバイス					
	• 正常分娩の生理経過とマネジメント					
婦人科症候	• 異常分娩に関する知識、分娩の実践					
	• 不正性器出血の鑑別・評価・マネジメント					
	• 下腹部痛の鑑別・評価・マネジメント					
疾患	• 異常な帯下・カユミの鑑別・評価・マネジメント					
	• 性感染症(PID)の診断・評価・マネジメント					
	• 月経痛の診断・評価・マネジメント					
	• 月経前緊張症の診断・評価・マネジメント					
	• 更年期女性のマネジメント(HRTの実践も含む)					
	• 避妊の指導(性の教育・ピルの処方も含む)					
	• 癌検診に関する知識と実施法					
	• 婦人科良性腫瘍の診断・評価・マネジメント					
手術	• 婦人科悪性腫瘍の診断・評価・マネジメント					
	• 産科手術への第2助手としての参加					
	• 婦人科手術への第2助手としての参加					

L <麻 酔 科> プログラム責任者 本間 康之		研修医自 己評価	指導医氏名	指導医 評価	備 考
手技・基本的な知識 (周術期における)	● 全身の観察				
	● 心電図				
	● 肺機能検査の解釈				
	● 動脈ガス分析				
	● 血算、生化学検査				
	● 細菌学的検査・薬剤感受性検査				
	● 各種画像検査(超音波、X線)				
基本的手技	● 気道確保・人工呼吸				
	● 心臓マッサージ				
	● 除細動				
	● 注射法				
	● 末梢・中心静脈確保				
	● 採血法(動脈血、静脈血)				
	● 穿刺法(腰椎)				
	● 局所麻酔				
	● 胃管挿入と管理				
	● 導尿法				
	● 創部消毒とガーゼ交換				
基本的手技	● 輸液の適応、投与量、種類決定				
	● 輸血の適応、種類の選択				
	● 輸血の施行方法、輸血の副作用の理解と対応				
症候 (周術期)	● 発熱				
	● 浮腫				
	● 発疹				
	● 血尿、排尿障害				
疾患	● 心肺停止				
	● 急性循環不全、ショック				
	● 意識障害、脳血管障害				
	● 急性呼吸不全				
	● 急性心不全、急性冠症候群				
	● 急性腹症、急性消化管出血				
	● 急性腎不全				
	● 急性感染症				
	● 外傷				
	● 誤嚥、誤嚥性肺炎				
	● アナフィラキシー				
	● 出血傾向(DICなど)				
	● 中毒				

M <救急医療> プログラム責任者 本間 康之		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
手技・基本的な知識	• ACLS				
	• ATLS				
	• 呼吸・循環の管理				
	• 創処置				
症候	• 意識障害の鑑別・評価・マネージメント				
	• 失神の鑑別・評価・マネージメント				
	• 痙攣の鑑別・評価・マネージメント				
	• 胸痛の鑑別・評価・マネージメント				
	• 動悸・不整脈の鑑別・評価・マネージメント				
	• 呼吸困難の鑑別・評価・マネージメント				
	• ショックの鑑別・評価・マネージメント				
疾患	• 脳血管障害の診断と専門医紹介までのマネージメント				
	• 気管支喘息発作・COPD 急性増悪のマネージメント				
	• 緊張性気胸の診断とマネージメント				
	• 急性心筋梗塞の診断と専門医紹介までのマネージメント				
	• 心不全の診断と専門医紹介までのマネージメント				
	• 糖尿病の救急の診断・評価・マネージメント				
	• 急性腎不全の診断とマネージメント				
	• 耳鼻科の救急の診断・評価・マネージメント				
	• 眼科の救急の診断・評価・マネージメント				
	• 婦人科の救急の診断・評価・マネージメント				
	• 産科の救急の診断・評価・マネージメント				
	• 中毒・異物誤嚥・誤飲・誤食				
	• 精神障害の救急・評価・マネージメント				
	• 外傷(頭頸部・胸部外傷・腹部外傷・骨盤外傷・四肢外傷・皮膚の外傷・動物外傷など)の診断・評価・マネージメント				
	• 熱傷の評価・マネージメント				
• 小児科の救急の診断・評価・マネージメント					

N <精神神経科> プログラム責任者 黒河 泰夫		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
精神症状を理解するための基本的態度	• 医療人として必要な態度・姿勢を身につける				
	• 基本的な面接法を学ぶ				
	• 精神症状のとらえ方の基本を身につける				
	• 患者さん、家族にきちんと病状を説明し、適切なインフォームド・コンセントを得られるようにする				
	• チーム医療について学ぶ				
疾患	• 統合失調症の理解とマネージメント				
	• 気分障害(うつ病、そううつ病)の理解とマネージメント				
	• 身体表現障害の理解とマネージメント				
	• ストレス関連障害の理解とマネージメント				
	• アルコール依存症などの理解とマネージメント				
	• 痴呆の理解とマネージメント				
治療法など	• 症状精神病の理解とマネージメント				
	• 精神症状に対する初期的な対応と治療(プライマリー・ケア)				
	• コンサルテーション・リエゾン精神医学の基本を学ぶ				
	• 向精神薬やその他の身体療法について学ぶ				
	• 精神療法の技法を学ぶ				
	• 精神科救急に関する基本的な評価と対応を理解する				
	• 精神保健福祉法および関連法規の知識を持ち、患者さんの人権擁護に配慮する				
	• デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する				

O <血液浄化療法科> プログラム責任者 阿部 憲司		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
手技・基本的な知識	• ブラッドアクセスの取り扱い				
	• 血液透析およびその他の体外循環による血液浄化の知識・手技				
	• 腹膜透析の知識・手技				
症候	• 尿毒症の評価・マネージメント				
	• 多臓器不全の評価・マネージメント				
疾患	• 急性腎不全の鑑別・評価・マネージメント				
	• 慢性腎不全の異別マネージメント				
	• そのほか血液浄化を要する疾患の鑑別・評価・マネージメント				

Q <地域医療> プログラム責任者 武田伸二		研修医自己評価	指導医氏名	指導医評価	備考
地域医療への理解	● 地域の特性に即した医療について理解し、実践する				
	● 診療所の役割について理解し、実践する				
仕事の処理	● 報告・相談連絡ができています				
	● 指示を正確に出している				
	● 最後まで責任を持って仕事をしている				
患者対応	● 患者に笑顔で対応ができる				
	● 患者に分りやすく説明できる				
	● 患者の反応を確かめている				
	● 患者への接し方に好感が持てる(親切さ、共感性、冷静さ)				
	● 言葉遣いが丁寧である				
協調性	● 自分から挨拶をしている				
	● 他職種にも配慮した関わりができています				
	● 自己の感情をコントロールして対応している				
積極性	● 積極的に、また前向きに仕事に取り組んでいる				
感染・安全への配慮	● 患者への処置前後に手洗いを行っている				
	● 適切にマスクを使用している				
	● 転倒・転落への配慮をしている				
	● 患者確認を適切にしている(ネームバンドなど)				
研修態度	● 清潔感のある身だしなみである				
	● 診療所の規則を守っている				
	● 時間を厳守している				
	● 整理整頓・後片付けができています				